



外国出張報告書

平成 25 年 12 月 25 日

1. 出張国名 インドネシア
2. 出張月 平成 25 年 11 月
3. 出張目的 インドネシア中部ジャワの多収水田水管理試験の収穫調査

4. 成果の概要

科研費・海外調査 A (代表機関：東京大学)「東南アジアにおける農業土木学的視点からの SRI 栽培技術の比較と標準化手法の開発 (H24-27) の 2 年目の調査出張である。目的は、
間断灌漑を特徴とする農法(SRI)で多収を挙げている農家の水管理データの取得、水管理が水稻生育に及ぼす影響に関する栽培試験の収穫期調査であった。栽培試験の結果、SRI 農法の水管理では、移植後 50 日目くらいまでの栄養成長期は表面水が浅く残る程度のヒタヒタ水で管理し、生殖成長期に入ると落水を開始し、幼穂形成期になると水位をさらに下げ、出穂後は再度田面がヒタヒタ水になるような水管理を行っていることが分かった。収量は生モミで 10～15t/ha と多収穫で穂数増が収量増に寄与していた。対象とした棚田では水位の日変動が数 cm と大きく、このことも多収要因であろうと推察され、今後「硝酸の部分吸収による乾物生産増加仮説」も念頭に今回の結果を検討し、次の栽培試験の設計に反映させる。